

「いのち」の教育実践事例

☆地域、共生に関する学びの実践

(県立鶴岡中央高等学校 総合学科 社会福祉系列)

地域連携・共生

－ 他者を思いやり、地域・共生を大切にする人づくりを目指して －

学校で学んだ福祉に関する基礎的な知識を活かし、地域の人々や機関と連携し、福祉のまちづくりについて自ら「気付く・考える・行動する」福祉の授業展開です。

① いきいき高齢者元気アッププロジェクト

- ・平成26年より、鶴岡市、鶴岡第6学区の地域の方と連携し介護予防体操の共同研究を始めました。
- ・鶴岡の名所、特産物などを庄内弁で歌詞に取り入れ、高齢者に馴染みやすい曲を自作し、皆でできる体操を考えました。
- ・家で1人でもできるようにパンフレットやDVDを作成。その後地域の方々の声から皆で一緒に集まって活動することも大切だと思い、現在もさらなる普及活動に力を入れています。

② 聴覚障がいや手話を学ぶ

- ・聴覚障がいがある方とのコミュニケーション手段である手話について学んでいます。自己紹介やあいさつなど基本的なことを学び、手話歌など学びを発展させ、理解を深めています。
- ・県聴力障がい者協会や鶴岡市障害者相談支援センターの方々を招いて、手話で交流を図るとともに、話をお聞きすることで、生活の理解を深めました。
- ・「将来どんな仕事に就いたとしても、手話で会話できることを役立てたい」といった声や、さらに自主的に町主催の手話講座に参加する生徒もいます。

③ 「外出体験」の実践

- ・「誰もが暮らしやすい鶴岡」をテーマに、3年次の授業では地域の協力を得て、商業施設や公共施設に行き、バリアフリーについて体験を通し考えます。
- ・生徒は「福祉の街づくりに1番必要なのは、もちろん設備も大切だが、お互いを思いやる心である」ことや、「せっかくバリアフリーになっていても使い方を知らなければ意味がないので周知が大切である」と学びました。

「歌がいのちの～」

「体あったまるのや～」



▲皆と一緒に体を動かすと楽しい！

大事なものは、伝えようとする気持ち



バスに知らなかった工夫がたくさん！



▲ノンステップバス

(庄内交通株式会社)